

暁破ゆる

卷頭言

みなもと 仁泉の源

第2号

発行責任者 藤高道也
印刷所 ハイライフ印刷
株式会社

題字 盛生一郎(2期)

仁泉会理事長 中村 安治郎

本年5月25日、京都での総会に出席された藤高広島支部長から近く発刊予定の支部会報への投稿の依頼を受けたので、古い記憶の中から、仁泉会の発足と校歌の制定について書いてみる事にする。

本大学の前身、大阪高等医学専門学校は、昭和2年4月1日開校され、私は1期生として入学したのであるが、当時同級生の中に、旧制高校から転入して来た人が相当多く、これ等の人々が中心となって入学早々から校友会作りが進められていた。昭和3年3月6日生徒総会で会則が承認されて、正式に校友会が発足し、会長は足立文太郎校長、副会長は里見三男教授（細菌学）が就任され、総務に、桑原（故人）と私が就任する事になった。

当時、各大学や高校、専門学校の学（校）友会では、会長は校長が教官を推す事が形式化していた様である。

校舎の本建築は遅れに後れ、高槻の八丁畷に基礎部門の校舎が姿を見せたのは3期生を迎える頃となった。

この頃から生徒間で「校歌を作ろう」の声が出始め、昭和4年10月31日、現在まで唱いつがれている校歌が校友会代議員会で制定され、その第2節の歌詞「仁の泉か朝に夜に」から、校友会名を「仁泉会」と改めたのである。

昭和7年3月31日、第1回卒業式挙行。初

めて同窓会の発足となるのであるが、同窓会名を「仁泉会」とし、学内の校友会は再び校友会を名乗る事となった。

昭和25年10月27日、「仁泉会」は社団法人としての法人格の名称として文部大臣（天野貞祐氏）の認可を受け、比較的数少ない文部省認可の同窓会の正式名称となったのである。

校歌を作れとの要望は、昭和3年の秋頃から生徒間で高まり、代議員会でその歌詞を学内で公募し、約20篇余の応募があった。これを文科系教授で作られた「校歌審査委員会」で審査してもらったが、採用可能の優秀作品が無かったので、委員長格の林久男教授（独文学者、故人）が応募各篇から適当な句を抜粋して、5章からなるほぼ現在の校歌の歌詞を作り上げて代議員会に提示された。

代議員会で問題となったのは、第2章の「^{みこと}詔に副いて朝に夜に」の句であった。「詔」即ち「教育勅語」を意味するもので、維新の大改革以来、明治、大正、昭和を通じて約1世紀近く、国民教育の基本とされてきたものである。代議員及び生徒側の反論は、「歴史的に見ても、国の統治形態や教育の方針は、必ずしも不変のものでない。しかし医の基本>は万古不变で、それは<仁>の1字に集約されている。」として、ヒポクラテス、緒方洪庵、その他数多くの医界の先師先哲の遺訓も例示されて、結局、圧倒的多数の賛成を得て「仁

の泉か朝に夜に」と改めることに決定された。昭和4年10月31日の事である。

林教授もこの説に賛成されて、自筆の原稿に先生の手でこの箇所を訂正され、それを頂いて大切に保存していたが、昭和8年の学園紛争時に紛失し、今も残念に思っている。

当時の我が国は、満洲事変から中国への進攻、更に第二次世界大戦へと15年戦争に突入する前夜であり、学内とはいえ、よくもこうした議論と改正が行われたことだと、更には敗戦後、多くの学園で校歌や校訓が訂正された事を見るにつけ、私は無量の感慨を禁じ得なかった。

この半世紀、医学、医術とその周辺分野は

想像を絶する大進歩を遂げ、更に前途は予測し難いまで進展をつづけて行く事だろう。反面、医の倫理、医の心の問題は、きびしく我々の上に課せられつつある事も認めなければならない。今、国民医療の在り方について、種々の困難な問題が我々の身辺に山積して、前途混沌たる様相を呈しつつある。しかし、人類の住む世界が消滅せぬ限り、医の光は消える事はない。医師と患者（住民）の温かい人間関係の上にこそ、眞の医療は生々発展する筈である。困難に打ちひしがれる時にこそ、更に済世仁愛の炬火を高く掲げ、仁泉の歌を声高く歌いつづけて前進しようではないか。

昭和61年度仁泉会広島県支部総会記

時 昭和61年8月24日

場所 広島厚生年金会館

定刻前から、ロビーは歓談する同窓生たちで和やかな雰囲気に包まれていた。本年度の総会には、盛生一郎（2期）、青柳秀一郎（3期）、真田博（5期）、平野好朗（6期）、伊藤稻造（11期）、田中三千穂（14期）、野村戊二（14期）、神田一郎（15期）、佐々木毅（16期）、高橋吉雄（16期）、小田吉成（18期）、菅田正樹（18期）、三玉久雄（18期）、佐々木一彦（19期）、藤高道也（20期）、入江義明（学2）、頼島昭（学2）、中坪本治（学4）、山本治（学5）、円山迪雄（学6）、久保智照（学10）、伊藤良一（学11）、木村公彦（学12）、大崎洲（学12）、福永晶（学14）、平田忠範（学19）、八木徹（学20）、佐々木尚（学21）、佐藤滋（学21）、八木敦夫（学21）、木曾昭彦（学22）、山下達博（学22）、高場憲夫（学30）、弘田直樹（学32）、小川竜介（学33）、小畠仁司（学33）、伊達健二郎（学33）、高橋宏幸（学35）、吉川浩英（学35）、以上39名が参加した。

開会に先立ち、昨年の総会以降に物故され

た信原利通先生（2期）、横山昌彦先生（5期）、西忠之先生（14期）、安達聖旨先生（15期）、のご冥福を祈って黙禱を捧げた。次いで会務報告を藤高道也支部長が行い、①この1年間の主な事業としては、広島県支部の会報『暁映ゆる』を昨年9月に、名簿を本年7月に作って全会員に送ったこと。②幹事会と新旧役員合同懇談会をそれぞれ2回開き会の運営について協議した。その際に昨年度総会で提案された会計監査については、監事として頼島昭先生にご就任いただいた。③またゴルフの会の再会を決め、アンケートの結果約30名の入会希望者があった。今回は円山迪雄先生のご盡力で、8月31日、本郷C.C.で行われる。④今年度の古稀会員、久留島通尚先生（9期）には、恒例により記念の時計をお贈りした。⑤仁泉会弔慰内規第6条に該当する長期療養中の会員は、前田利矩先生（9期）と江木清史先生（10期）のお二人で、本部にお見舞を申請した。また昨年11月には、大腿骨頸部骨

仁泉会広島県支部60年度会計報告

収 入	支 出	残額
前年度繰越金 647,188		647,188
年会費（開業医） 421,360	総会費 173,900	
年会費（勤務医） 56,200	慶弔費 81,200	
総会会費 210,000	会員名簿及び通信費 226,620	
寄付金 10,000		145,840
幹事会費 29,000		
預金利息 4,627		
小計 731,187	小計 631,560	99,627
総計 1,378,375	総計 631,560	746,815

次年度繰越金 746,815円

昭和61年7月31日

幹事 福永 昌
監事 賴島 昭

折で入院された藤峰徹定先生（特別会員）をお見舞申し上げた。

以上の報告に続いて、昨年『楨殿賞』を受賞された梶川博先生（特別会員）、今春大竹市医師会長に再選された青柳秀一郎先生、甲奴郡医師会長に再選された三玉久雄先生にお祝いを述べた。最後に本年度の新入会員は、学35期の高橋宏幸、土井龍一、吉川浩英、安田威津子の4君であると紹介され、高橋宏幸先生が新入会員を代表して登壇し挨拶を述べると、全員拍手で大歓迎。支部長からE.H.カード『歴史とは何か』（岩波新書）を、新入会の諸君に記念として贈り、「歴史とは現在と過去との対話である」という著者の言葉をかりて、「若い皆さんと先輩たちとの語らいが、仁泉会の良き歴史をつくるであらう」と述べた。

次に福永晶幹事が、詳細な説明を加えながら会計報告を行い、拍手をもって承認された。

続いて、新旧役員合同懇談会で検討した結果、会計年度を総会から総会までとするのが実際的であること。二年交代の幹事とは別に終身会長を置く必要があること。以上二つの理由で会則の一部変更を行ったと支部長から

説明があり、異議なく了承された。席上新会長には盛生一郎先生が全員一致で選ばれた。盛生会長は「私は76才です。会務は支部長はじめ幹事の諸先生にお任せして、年を取っても元気でやっているという同窓のサンプルになるといった気持ちでお引き受けいたします。」と力強く挨拶された。

石神襄次先生の特別講演『最近の尿路感染症と化学療法』は、先づ山本治幹事から恩師石神先生のご経歴とご業績について紹介があり、石神先生は「広島には昭和22年から5年余り、大阪医大には昭和30年から10年余り在職した。本日は懐かしい方々にお会いできて嬉しい。」と前置きされて、全科の医師の知つておくべき診療のポイントを、わかり易く約1時間に亘り講演された。（講演要旨別掲）

講演終了後、記念撮影を行い、懇親会に入る。長年の船医を今春退職され、同窓会への出席は初めてという野村茂二先生の乾杯の音頭で宴は始まった。ほど良くアルコールの入ったところで、伊藤稻造先生と入江義明先生の東西両雄による手品合戦。ご来賓の石神先生も手を叩いて大喜び、会場からは感嘆の声し



きり。弘田直樹先生、伊達健二郎先生、吉川浩英先生らの若手がナウイ歌を出せば、真田博先生はいつ覚えられたのか「スミレの花咲く頃——」と宝塚の歌。平野好朗先生は久しぶりにチャイニーズスタイルの隠し芸。「安芸医師会は僕の歌を聞いてシビレる」と木村公彦先生がマイクを握れば、大阪医大外科教室で宴会部長の異名をとった八木敦夫先生の『矢切りの渡し』。さればと三玉久雄先生の『花と蝶』。何故か三玉先生の歌には「かあちゃんを

大事にしよう」との語りが入る。中坪本治先生が『こざる会』の想い出を語れば、神田一郎先生が「僕もこざる会だった」と中坪先生の肩を抱きながらの応援演説。久しぶりに会った同窓諸先生の歌や近況報告に耳を傾けるうちに定刻となる。真田博先生から「本日は若い先生たちの出席も多く、ほんとに嬉しかった」と閉会の言葉があり、田中三千穂先生のリードで“暁映ゆる”を歌って散会した。

特別講演『最近の尿路感染症と化学療法』

(国立神戸病院長 石神襄次先生) の講演要旨

石神先生のお話は、我々の日常診療に役立つ多くのご指摘がありましたので、その概要をお知らせします。

日常我々が接する膀胱の炎症は、ほとんどが単純性のもの（单一の細菌感染）で、大腸菌が大部分を占める。症状は頻尿、排尿痛のみではなく、下腹部の不快感、腰痛など色々な形で現われてくる。

診断にあたって最も大切なのは尿の所見の

判断である。即ち、①菌が証明されても、その菌が原因菌であるとは限らない。②菌が証明されても、白血球がなければ炎症とはいえない。逆に菌が証明されなくても、白血球が一視野に10個以上あれば炎症と判断してよい。③膀胱炎の様な症状が強く出現していても、尿中に白血球を認めなければ膀胱炎とはいえない。他の原因を考える必要がある。

膀胱炎を度々再発するもの、特に季節の変

わり目に再発をくりかえすものに対する注意としては、①約2時間ごとの排尿を行う。②性交後10分以内に排尿する。③1日に2ℓ以上の水を飲む。④婦人では排尿、排便のとき、前から後方へ拭くこと。以上の注意で65%以上再発を防ぐことができる。

再発をくりかえすものの中には、膀胱炎様の症状を訴えていても、膀胱炎でない場合も少なくないので、確実に判断すること。例えば、①婦人の場合、子宮の前屈或は後屈により膀胱が圧迫されて症状が出る患者には子宮の手術をする。②更年期婦人では、尿道狭窄が生じている場合は、ブジーによる尿道の拡大を行う。③先天的に尿管が内尿道口に近く開口している患者には、トランキライザーが有効である。④ノイローゼの患者に対してはトランキライザーを投与する。

また、出血性膀胱炎の場合はアレルギー性反応が加わっている場合が多いので、化学療法に抗アレルギー剤（強力ミノファーゲンC等）を併用すると効果が良くなる。

治療にあたっての心得としては、①単純性の場合には、合成ペニシリン剤、ナリジクス酸剤などで充分効果があるので、むやみに最新の化学療法剤を多用しないこと。②化学療法剤（フルマーク、タリビット、バクシダ

ル等）は耐性が非常に早くできるので、2週間以内の使用を限度とすること。効果が少ないときは、早目に薬剤を変えること。③耐性ができて効果が悪くなってきても、しばらく投与を中止していると、感受性が再び出てくる薬剤が少くないので、この点を大切にして使用する必要がある。（ナリジクス酸はその典型的なもの）④膀胱炎様の症状を訴える患者でも、膀胱炎とはっきり診断できなければ、漠然と化学療法を行うことは厳に慎まなければいけない。

最近、非淋菌性尿道炎が多発しているが、これはクラミジアに起因するもので、淋菌性尿道炎に比較して症状は軽く、女性ではほとんど症状の出ない患者もいる。これには普通の薬剤は効果がなく、テトラサイクリン製剤が効果がある。

最後に、セフエム系薬剤が最近次々と開発されているが、幾世代にわたって開発できるものではなく、その使用方法を間違えると、すべてに耐性ができる、すぐに使いものにならなくなってしまう危険がある。21～22世紀の子孫に迷惑をかけないように、現代の我々が、大切に、心して使用しなければいけないとお話しを締め括られました。

（中坪本治）

総会に出席して

高橋 宏幸（学35）

先日は、大変盛大な会にお招き頂き本当に有難うございました。

諸先生方の年令の幅もさることながら、広島だけであれだけの人数が集まることに、改めて大阪医大の歴史の長さを感じました。

医局と病棟の雑用で忙しい毎日ですが、時々ふと高槻の、あるいは他の地にいる同期の悪友どもは、今頃何をしているだろう、と思う

ことがあります。母校とのつながりを持ち続けなければならないとも思っています。

何分未熟者の私ですが、これからもよろしく御指導下さる様、御願い致します。

古稀会員のひと言

久留島 通尚先生（9期）

この度は、小生の古稀の祝いに会より記念品を贈って頂きありがとうございました。

8月は小生の誕生日月でもあり、24日の総会には是非出席いたしたいと予定して居りましたところ、親せきの者の法要を当日営むこと

に相成り、誠に残念ながら総会欠席の止むなきに至りました。古稀とはいえ、相変わらず元気でやって居りますので、会友の皆さんによろしくお伝え下さい。

喜寿会員 続々と誕生

——半世紀を超える母校の歴史を象徴

昨年の青柳秀一郎先生（3期）、富永忠人先生（3期）に続いて、今年の敬老の日には、盛生一郎先生（2期）、郷田忠一先生（3期）、

平野好朗先生（6期）、井口謙太郎先生（8期）に、喜寿を記念して杉本純雄県医師会長から置時計が贈られました。

呉仁泉会復活す

去る6月19日、久しぶりに呉仁泉会が呉市内の『陣屋』で開催されました。高橋久男先生（4期）、平野好朗先生（6期）、原公徳先生（7期）、石原春夫先生（9期）、宮崎直胤先生（12期）、城口護先生（14期）、菅田正樹先生（18期）、長尾澄雄先生（学7）、前田中先生（学9）、佐々木尚先生（学21）、豊田秀三

先生（学22）の11名が出席し、和気藹々と楽しい一夕を過ごしました。年1回の開催を決め、会長に城口護先生、幹事に豊田秀三先生が選ばれました。

（城口護、菅田正樹、豊田秀三の三先生からご連絡をいただきました。）

仁泉会広島県支部ゴルフコンペ

——会長杯は木曾昭彦先生（学22）の手に——

朝夕の風は初秋を感じさせますが、残暑なお厳しい8月31日、仁泉会広島県支部のゴルフコンペが、山本治（学5）、円山迪雄（学6）両先生のご盡力により、本郷カントリークラ

ブにおいて開催されました。

今回は、盛生一郎先生の会長ご就任を記念した会長杯が新しく用意され、また豪華な賞品の数々も揃い、参加した16名は日頃の気忙

しさを忘れて、楽しく一日を過ごしました。
なおコンペ終了後の懇親会で、年1回の開

催と、次回幹事は優勝者が担当することが決
まりました。

(福永 晶)

NAME	OUT	IN	TOTAL	H.D.	NET	RANK	
木曾 昭彦(学22)	52	42	94	28.8	65.2	優勝	
稻垣 和郎(学28)	49	45	94	27.0	67.0	2位	
中坪 本治(学4)	42	42	84	9.0	75.0	3	
福永 晶(学14)	53	48	101	25.2	75.8	4	D.C.
灰塚 隆敏(学23)	59	47	106	29.7	76.3	5	
大木 正美(学28)	51	53	104	27.0	77.0	6	
円山 迪雄(学6)	40	40	80	2.7	77.3	7	N.P.B.G.
山下 達博(学22)	51	50	101	22.5	78.5	8	D.C.
田中 三千穂(14期)	45	43	88	8.1	79.9	9	N.P.
八木 敦夫(学21)	51	54	105	24.3	80.7	10	
大崎 洋洲(学12)	45	50	95	13.5	81.5	11	
真田 博(5期)	48	50	98	13.5	84.5	12	
山本 治(学5)	53	42	95	5.4	89.6	13	
平田 忠範(学19)	65	57	122	27.0	95.0	14	B.B.
菅田 正樹(18期)	69	63	132	32.4	99.6	15	
小田 吉成(18期)	55			途中棄権			

仁泉ひろしま ア・ラ・カルト

(はじめに) ア・ラ・カルトとはお好み一品料理の意味である。このコーナーでは異色の同窓生にご登場いただき、ちょっぴり美味しい話を聞きしようと企画しました。第一回目は、今年の総会で見事な手品の競演をご披露くださった、伊藤稻造先生(11期)と入江義明先生(学2期)へのインタビューです。

— 切っても切っても切れない紐や、千円札をたたんで開くと1万円札になったり、お二人の素晴らしいお手並みにみんな大喜びです。今では同窓会の目玉といいますか、私達の大きな楽しみになりました。手品は学生時代から始められたのですか?

入江 いいえ、昭和39年に府中へ帰って開業してからです。府中市長の宗藤さん、この方がなかなかのマジシャンで、当時は毎晩のように私の家に来ていただいて習ったも

のです。それが最初です。

伊藤 入江先生のように、カードを使いこなすことが出来るようになれば、これはもうプロ級ですよ。僕のはキャップとかハンカチや紐を使う簡単なもので、独学我流。実は僕が手品を思い付いたのは、昭和30年頃、開業していて子供がなかなかおとなしく診察させない。胸やお腹を素直に出さない。

— ほら、ここにあるよとキャップをシャツの下から出して見せる。子供は不思議がつてシャツを脱ぐ。

伊藤 そう、そうなるとしめたもので、うまく診察できるし、子供は面白がってまた来る。

— 病気が治ってもね。(笑)

伊藤 だけど同じことをいつも繰り返すわけにはいかない。飽きてしまいますがね。そこで僕も工夫して新しい種を仕入れてい

いろいろやってみる。それで、昭和45年頃でしたか、手品のお医者さんということでNTVの『ルックルックこんにちわ』という番組に引っ張りだされて、紐切りやキャップの手品をやりました。その2年ぐらい後にNHKの『6・30』にも出ました。

入江 今の話ですけどね、子供を騙すのはほんとは一番難しいんですよ。子供はパッと直感的に見抜いてしまう。頭の良い人ほど騙し易い。何故だらうと考えてしまうんですね。

— 今日のような同窓会は？

入江 大きな声では云えないけど、騙し易いですね。(笑)

伊藤 でもね、カードの手品は難しい。手品のなかでは最高の技術が要る。

入江 カードには種がないですから、そう言った意味ではね——。先ほど伊藤先生は子供の患者を相手に工夫したと言われましたが、私の場合は、新しいものを考案した時に、先づ自分の娘を相手にやって見せて、それで上手く騙すことができたら大丈夫だと思っていました。娘が大きくなって嫁にいってしまったので、いまでは毎年敬老の日に府中文化センターで、子供じゃなくてお年寄りを相手に騙しています。



入江義明先生



伊藤稻造先生

— マジックの好きな医師の会があると聞いていますか——。

入江 日本アマチュア・ドクターズ・マジシャンクラブというのがあり、入会はしていますが、東京へ行ったことはありません。

— 初めに府中の市長さんの話が出ましたが、伊藤先生も市会議員の選挙の時に手品が役に立ったのではありませんか？

伊藤 少少は役に立ってると思いますよ。結婚式のときなど、披露宴でやると歌よりも印象が強いようです。

入江 私も宴会で歌うのが苦手で、それを手品でカバーしています。今年の4月には自分の息子の結婚式でやらされました。花婿の父ですからね、ちょっと緊張しました。

— そうしますと、お二人とも手品の道具はいつも持っているらしいですね。

伊藤 僕はキャップだけはいつもポケットに入れて歩いています。

入江 私もカードとか紐とか小さいものを持っています。習慣ですね。

伊藤 悲しい手品師の習性です。(笑)

— 最後にお尋ねしますが、手品の効用について——。

伊藤 手先を使うことはボケの防止になりますよ。

入江 それに国際性があって、言葉は不要、年令も不問です。

(おわりに) ひと昔前の同窓会では伊藤稻造先生の『丹下左膳』が出なければ面白くなかった。いま先生は、老人ホームの経営、広島市議会議員、

手品、謡曲、仕舞と口八丁手八丁、いや八面六臂の大活躍。対する入江義明先生は、手品は無趣味から生まれた趣味とおっしゃる現代の『むつり右門』かとお見受けしたが、なかなかどうして楽しい語り口でした。

(総会の日に、 ききて・藤高道也)

わが戦中、戦後——短歌とともに（その一）

青柳 秀一郎（3期）

序

日露戦争後三年にして生を享けた私は、其の後四十年、太平洋戦争に巻き込まれて、とうとう南支桂林を更に約百粍先き辻本隊を追うこととなった。其の後三年、欧米ソを交えての大戦は集結し、同時にアジア諸国の独立が相次ぎ、我が祖国は敗戦、米軍に占領された。全く疾風怒濤の時代を経験したが、戦後既に四十年を経た今日では充足飽食の時代を迎えている。ただ我が三期生は、二十五名の戦死者を出し同窓中四位の悲しい記録を残している。

これら戦中戦後の強い印象を、或いは戦塵のなか、或いは生活に追われながら短歌に記して来たが、省みて茫々夢の如しである。もとより短歌会結社に属する器量もなく、師もなく、全く業余の「すさび」である。ただ学生時代にふと、尊敬する島木赤彦先生に触発されての戯れ事である。誌上をかりて発表するのは汗顏の至りであるが、ご批判頂ければ幸いである。

不盡 昭和61年9月30日

昭和十七年二月大竹市にて開業。同年七月「軍医予備員に志願せられ度し」との通達きたるも、意に介せず破棄す。翌十八年七月、軍医予備員を志願せざれば一兵卒として召集

するやもしれずとの通達あるも再びこれを破棄。遂に八月に入り、一兵卒として九月一日入営すべしとの赤紙令状きたる。直ちに広島第二部隊に赴き、軍医予備員志願の旨を申し入れたるところ赤紙令状は撤回され、第二部隊に軍医予備員として九月中旬入隊を命ぜられ、二十七日間の訓練を受け軍曹として除隊す。翌十九年九月に将校欠員補充要員として、三十数名の各科将校と共に和歌山連隊に入営。約一ヶ月後に出征下令、夏服支給さる。外地の状況全く不明の我々は、内地の食糧逼迫を思い、比島派遣ならバナナにありつけると喜びたるところ、翌日夏服を返却し冬服支給となる。満洲行きかも知れぬと思う。出征の由を家族に通知、妻面会に来る。

今日帰る君と思えども
思いなきものの如くに相別れけり

何事が残せる如く思いつつ
慌ただしくも征途に立ちし

戦地へ向う列車の鉄路は、我が家より離れることが約百米位。四人の我が子（小学生、幼稚園児）に下給品の金平糖入りの乾麺包四袋（民間では貴重品也）を包みて車窓より投ぐ。

帰還後尋ねたるところ三袋が無事我が家に届けられたりといふ。食糧不足の折なれど人情未だ廢らずの感深し。

朝鮮にむかいて走る汽車の窓ゆ
我家に近し金平糖投ぐ

遂に北支を経て、十月五日南京集結。集中當にて。

高射砲烈しき中に心憎し
大きな姿もちB29往く

B29又來りぬ己も己も
銳く叫びつつ壕に飛び入る

まなかひに真上を過ぐる敵機仰ぎ
爆弾や落さむ今ぞと凝視む

秋雲は影はだらなり紫金山
中山陵はまなかひに見ゆ

南京集結五日後、我が老将校團二十八名は汽船に便乗し揚子江を遡上、桂林駐留と聞く原隊に向う。

全員が痺しと云いて襦袢脱げば
五日にして縫目皆虱なり

揚子江畔の蕪湖なる地にて二日間を兵站舎に泊す。瀟洒なる洋館二、三、我が商社に接収されてあり。

ひねもすに揚子流るるこの岸に
ユニオンジャック翻りし日は

おのがじし良きを占めつつ大き館
ありなせる日の英の力や

行く行くもこの江の色變るなし
渦をなしつつ濁水流る

一ヶ月間、列車または前線へ資材運送のトラック上に便乗、遂に原隊に到着。中都と云う大部落なれどゴーストタウンなり。モンキー・バナナ等あり。資材なく、マラリア用アブリンのみ。

野に出づればはや春風ぞ
あるはただアブリンのみ他に薬なし

土匪討つと闇を進みぬ
三月のはのぬくき夜に螢は行くも

土匪討つと闇暗き道進み行けば
けろろと長く鳴く鳥の居り

夜を通し遂に来りぬこの村に
敵早や見えず鶯の鳴く

彼方にや敵や隠ると曉の
炊煙上る山の窪指す

谷底に白くぞ光る河の瀬も
夕さりにけり山深ければ

夕暮るる谷深くして水の音のみ
かそく響く高山道は

夕さればたちまち暗し山道を
ひたに進みぬ敵に会はむため

転びつつ滑りつつ遂に夜の雨や
相呼びつ進む泥山道を

新寧前進中、敵機に発見さる。三名戦死す。

生き死には運命なりとは思いつつ
敵機来れば慌つ悲しさ

駐留警備の間。

数もなきこれの煙草を呉れゆきて
戦死と聞きぬ昨日の兵よ

次々と戦友亡ないて六つ年を
戦いし兵は逞しきかな

弾丸の音絶えし一瞬光り満てる
若草野辺に蝶舞い居れり

おちこちに兵等眠れり夜の明けの
戦い暫しややにひそまる

今し方逃げるんしなるらむ暖かき
飯炊きありて取り散らしたる

昼間、外出中に見る。爆撃のためか。

腰部開き腸はみ出づる娘あり
為す術なみに我は立ち去る

会員消息短信

田坂一之先生（1期）

「近頃は体が少し弱りましたので、往診は止めて、来てくれる患者さんだけ診ております。」とお便りがありました。

郷田忠一先生（3期）

「これといった病気もしなくて、元気に過ごしています。青柳君によやしく。」とのお電話をいただきました。

青柳秀一郎先生（3期）

昨年10月1日、産業保健推進のリーダーとして広島労働基準局長表彰。本年3月16日には県医代議員20年勤続の表彰。ついで3月28日、大竹市医師会長に再選。「人の和を大切にされる青柳会長のもとに大竹市医師会は一致団結している」とは県医師会速報の記事です。

小野聰三先生（4期）

「年令の所以と日頃の不節制が祟り、昨年来狭心症の発作に数回襲われて恐れをなし(勿論寝ては居りませんが)、ぱつりぱつりと患者さんを診させて頂いています。目下外出恐怖症です。」とお便りがありました。

小池誠之先生（7期）

「老人の話し相手になり、毎日愚痴を聞き、その日その日を過ごして居ります。同窓の皆様によろしく。」とのお便りでした。

林 剛吉先生（8期）

多忙で好きなテニスも仲々できないとのお便りでしたが、昨年11月沖縄での全日本医師庭球大会で優勝、今夏ローマで開催された第15回世界医師テニス大会では、65才以上の部で単、複ともに優勝。帰国早々の9月7日、広島市医師会主催の大会には壮年の部で優勝されました。

前田利矩先生（9期）

東広島市医師会長の職を退きご療養中の先生から、「ご心配ありがとうございます。6月3日に退院いたし、家にて体力回復に努めています。秋風の吹く頃には、皆さまにお目にかかるものと楽しみにいたしております。」とお便りがありました。

難波富三郎先生（12期）

「元気で診療に従事して居りますが、近年腰痛に悩まされて居ります。総会のご盛会を

祈ります。」とお便りがありました。

城口 護先生（14期）

県医団碁界有数の打ち手。棋力5段はおそらく同窓の最右翼。ちょうど総会当日は県医主催の団碁団体戦に出場するため、残念ながら欠席しますとご連絡がありました。また先生は、吳仁泉会再建の立役者でもあります。

山本 務先生（14期）

「一向に改善されぬ交通混雑に悩み、平坂な日常に何らかの意義を見出さんと暮しています。」とお便りがありました。

井上武司先生（20期）

趣味の写真でご活躍。第17回医家芸術展の出品作“白の落流”的評価は高い。同じ趣味をもつ同窓が集まることも有意義だとご意見がありました。

岡橋 清先生（20期）

名簿から脱けていることを、総会のとき高橋吉雄先生（16期）から指摘されました。同期の藤高支部長としては平身低頭、早速お詫びの手紙を差し上げたところ、返信に一句あり「思ひきや六十すぎて初便り」。岡橋誠先生（学28期間）はご子息です。

武田啓志先生（学3期）

「ご無沙汰しております。医師会の仕事と身の廻りのことで、ともに忙しくしています。」とお便りがありました。先生は、三原市医師会設立以来初めてという、激しい昨年の役員選挙で理事に当選されました。

佐々木 尚先生（学21期）

吳共済病院を退職され、昨年9月ササキクリニックを開設されました。吳市西中央1丁目6-15-504。（広大耳鼻咽喉科学教室ご出身）

藤井俊宏先生（学21期）

中電病院にご勤務の先生から、脳と心臓以外は何でも手術しますし、いつでも診ます。同窓の先生方からの患者紹介をよろしくとのことです。（広大第二外科学教室ご出身）

大庭容子先生（学22期）

広島市南保健所を退職され、本年5月、広島駅前診療所をご開設。広島市南区松原町3-16。（岡大麻酔科学教室ご出身）

高野 明先生（学25期）

「庄原日赤にて頑張っております。総会は都合により欠席させていただきますが、ご盛会をお祈りします。」とお便りがありました。

稻垣晶紀先生（学27期）

「現在、因島市医師会病院の副院長として勤務いたしております。今年の秋には、広大第二内科へ帰る予定となっております。」とお便りがありました。

大木正美先生（学28期）

「毎日の診療と、夜は週に2、3日広大の研究室へ出かけており、比較的忙しい生活を送っています。」とのお便りでした。

岸 和彦先生（学31期）

市立八幡浜病院を辞し、中国労災病院に勤務されています。（広大整形外科学教室）

梶川 博先生（特別会員）

「総会の頃にはハワイに行く予定になっています。この6月から水泳（週二回のペース）を始めました。皆様によろしくお伝え下さい。」とお便りがありました。

業務日誌

昭和60年8月31日：会報『暁映ゆる』第1号を発行、全会員に送る。

昭和60年9月18日：午後7時より県医師会館第二会議室にて新旧役員合同懇談会（盛生一郎、真田博、荒木秀雄、田中三千穂、山本務、小田吉成、藤高道也、中坪本治、山本治、伊藤良一、大崎洲、福永晶、山下達博）。会の運営、会則の一部変更につき協議し、会報の続刊、ゴルフの会の再開、頼島昭幹事の監事就任を決めた。

昭和60年10月20日：梶川博先生（特別会員）の横殿賞受賞と長尾澄雄先生（学7）の新聞記事を仁泉会ニュースに投稿。

昭和60年11月2日：支部長が会を代表して、安佐市民病院に入院された藤峰徹定先生（特別会員）をお見舞した。

昭和60年11月25日：仁泉会ニュース（第16巻11号）の巻頭に『暁映ゆる』が載り、筆者の中村安治郎理事長へ支部長からお礼状。

昭和60年12月4日：前田利矩先生（9期）に療養状況をお尋ねし、『弔慰内規』第6条に該当するので仁泉会に報告。

昭和60年12月5日：横山昌彦先生（5期）ご逝去。後日県医師会速報で知り、香典と共に支部長からご遺族へお悔み状を差しあげた。

昭和60年12月13日：信原利通先生（2期）ご逝去。後日ご遺族からご連絡をいただき、香典と共に支部長からお悔み状を差しあげた。

昭和61年5月25日：仁泉会基金運営委員会（京都、『白鳳』）に支部長出席。

昭和61年5月30日：広島県出身の新卒業生の所在確認のため父兄宛に照会。

昭和61年6月10日：安達聖旨先生（15期）ご逝去。神田一郎、山下達博両先生からご連絡をいただき、生花一対と香典を供え、弔電を打つ。

昭和61年6月13日：午後7時より県医師会館第二会議室にて新旧役員合同懇談会（盛生一郎、真田博、田中三千穂、山本務、小田吉成、佐々木一彦、藤高道也、頼島昭、中坪本治、山本治、伊藤良一、大崎洲、福永晶、山下達博、灰塚隆敏、高場憲夫）。総会開催の日時、場所、招待する講師の人選を協議。ゴルフの会については山本治幹事に一任。

昭和61年6月22日：江木清史先生（10期）が休業ご療養中であることを県医師会速報で知り、療養状況につきお尋ねし、『弔慰内規』第6条に該当すると仁泉会に報告。

昭和61年7月22日：総会通知及び名簿を発送。

昭和61年8月11日：『飛鳥』にて小幹事会（藤高道也、山本治、福永晶）。総会次第と役割分担につき協議。久留島通尚先生（9期）に古稀記念品発送。

昭和61年8月24日：昭和61年度仁泉会広島県支部総会並びに懇親会を広島厚生年金会館で開催。盛生一郎先生（2期）終身会長に選ばれる。

昭和61年8月31日：仁泉会広島県支部ゴルフコンペを本郷C.C.にて開催。

昭和61年9月12日：仁泉会中村安治郎理事長の原稿をいただく。午後7時から『とり若』で幹事会（盛生一郎、藤高道也、頼島昭、山本治、伊藤良一、福永晶）。総会収支、会報2号準備が議題。

お・し・ら・せ

- 名簿に次のお二人の先生をご追加下さい。

氏名	卒期	〒	自宅住所	TEL	開・勤	勤務(開業先)	診療科目
岡橋 清	20	722	尾道市三軒家 町17-12	0848- 22-2262	開	現地開業	内・児放
岸 和彦	学31	737 -01	呉市広町1477 労災官舎52号	0823- 74-2138	勤	〒737-01 呉市広町1477 中国労災病院 TEL0823-72-7171	整

- 現役員は次の通りです。

会長 盛生一郎

幹事 藤高道也(支部長)、頼島 昭(監事)、山本 治、伊藤良一、

福永 晶(会計)、山下達博、高場憲治

- 各地区で会員の親睦会など開催されましたら、支部長までご一報下さい。

- 投稿及び連絡先

〒733 広島市西区打越町12の8

藤 高 道 也

TEL(082)237-4600

(082)237-3403